

〔5〕 家庭との連携

学校と家庭との連携については、その必要性をここで事新しく書く必要がないほど言われてきている。学校は家庭生活の受け負いの場ではないが、一日のほとんどの時間を学校ですごす子どもたちにとって、家庭のことが学校担当者によく伝わっていなければならない。また、家庭生活の向上を願えば、学校で取り組んでいることも家庭で生かされていなければならない。中学部でのコミュニケーションに視点をあてた研究においても、家庭との連携を大切に考えてきた。

(1) 生活リズム調査 (中学部生徒 21名)

中学部では、家庭との連携を図っていくためにも、生徒の家庭での実態を把握することが必要だとして、生活リズムに関するアンケートを毎年実施している。今年度は、生徒の活動範囲について1年間に外に出かけているところを落とさず記入できるように配慮した。調査項目は、次の様である。アンケートの結果から次のような傾向が認められた。

① 1週間の暮らしについて

- ・平日は学校と家庭の往復、土・日を含めた休日は50%に近い生徒がテレビを見て過ごしている。

② 自立した生活をめざして

- ・基本的な生活習慣については、個々の生徒の実態に合わせて配慮・援助を受けている。
- ・遊びについては、1人かまたは家族に限られている。遊びの種類は少なく、短時間の子が多い。
- ・家族との関わりとしては、当然として母が中心であり、身近で世話をする人に偏る。

③ コミュニケーションの関係

- ・帰宅後、学校の話をする生徒は「良く話す」と「まあまあ話す」を含めても少なく、学校のことは余り話さないや無記入の方が多く76%もあった。
- ・親としての子供への期待は次の様に出ている。

意志が通じる。応答できる。話ができる。社会的行動が身につく。道徳的行動が身につく。対人関係が良くなる。

④ 家と学校以外に出かけた場所の範囲 (1年間の延べ数)

- ・東部地区近辺 (66回)、県内 (4回)、県外 (3回)
- ・家族以外の人と出かけたことがあるのは、3回が1人、1回が1人で人数的にも、回数的にも大変少なく、その他の家庭はなしである。

今年度の調査結果は、昨年度と比較しての変化は見られない。家庭も学校もお互いの連携のもとで期待する方向に何らかの進展を図りたいと考えている。

まず、生活のリズムを作ることで基本的な生活習慣を身につけ、自立化を図る。おおかたの生徒は個々の実態に合わせて家族の適切な援助を受けながら生活をしている姿が見える。学校の方で家庭に要望していることは、できることまで家族の手が入りすぎ、かえって自立化を妨げることはないようにということである。自立化をねらって全教育場面で取り組まれているが、起床と入浴については保護

者の理解を得て生活単元学習（宿泊学習、性教育）でも実践している。また、遊びや家族の関係をみると、家族の中に囲まれていて、その中でも、特に母親との関係が強い。中学生として生活年齢的に見れば外部との交流が強く望まれる。この外部との交流を意識している例としては、公文式学習の塾に通うとか、障害児の体操教室やプールに出かけている等ある。また、地域の催しや居住地の学校行事に出かけて同年齢の集団に混じる等、家族以外の人とふれ合うことができている。近所のスーパーに1人で買い物に出かけている生徒もいる。

次に、楽しい生活を送るために、人間関係を作るコミュニケーションを重視している。調査の中では、子どもとのコミュニケーションが取れていないと感じ、「人とのコミュニケーションはうまくできていると思えますか」という設問に「いいえ」と回答している保護者が35%ある。障害があってもうまくやりとりができない場合でも、意志表出の意欲を持ち、言葉数が増えてほしい、人を意識しての行動が増えてほしいと保護者は願っている。家庭と学校の場の中にその願いを生かした取り組みが望まれる。当然、日常生活の指導のなかで生活ノートの連絡の往復、生活単元学習での取り組み、懇談での両者の話し合いなどが実践されている。

(2) 生活単元学習の取り組み（中学部1年）の例

- ① 時期 5月7日、9日 総時間数 4時間
 ② 単元名 「お母さんありがとう」 — 家事の分担をしよう —

〈H子の取り組み〉

<p>お母さんありがとう 母の日を迎えて、それぞれの家庭で1日の過ごし方を計画し、家族の協力の下で計画した以上のことに取り組めた人もあるようです。 <u>★母の日のお手伝いは何をしますか。</u> H子・ケーキ作りをしてあげたいわ。食事を作ってあげたいわ。 おうちの方の感想 ・今日はケーキと一緒に作って、「お母さんありがとう」と言いながらジュースで乾杯しました。また、そばをゆでたり、薄焼き卵を作ったりもしました。感謝の気持ちを持ってくれて嬉しかったです。 家事の分担をしよう <u>★自分にできることは何か。毎日できることは何か。注意を受けずにできることは何か。「自分のことは自分でする」も仕事に入れよう。(家族と相談したことを書く)</u> H子・平日：食事の準備、片づけ、風呂焚き 休日：拭き掃除、洗濯物たたみ、食事作りを一緒にする。</p>	<p>◎生活ノートの家庭からの連絡より抜粋◎</p> <p>5月7日 日曜日は料理のお手伝い、風呂焚きを頑張りました。 5月10日 家事分担ですが、注意を受けずに1人ですというのは難しいです。一緒にしながら少しずつ1人でさせるようにしたいと思います。 5月11日 毎日風呂焚きをすると言うので一緒にします。(雨の日以外)相手が火なので気をつけないといけません。 5月12日 風呂は電気温水器と循環式の風呂釜の併用です。天気の日には外でゴミを焚きます。 5月23日 家では風呂焚きを私の出番だといって頑張っています。 10月5日 夕飯の支度があまり手伝えなかった時は、何もできないと言います。風呂焚きが必要になったのでさせています。 10月18日 毎日風呂焚きをしています。のらねこが物置に住みついでいて夜になると鳴くので大声で「こらー」などと言っています。</p>
--	--

H子は、家の仕事に目を向け、家事の分担をすることで家族の一員としての自覚が芽生えた。家族の中で安心し、自信を持てば、自分から出る言葉の回数も多い。「私の出番よ」と言うH子の姿からは、自分の役割の自覚と周囲の人と関わっていかうとする意欲が感じられる。

このように、家庭との連携でコミュニケーションの力を少しでも拡げることができたと考える。